

## 第6学年国語科学習指導案

平成30年11月28日 水曜日 第5校時

児童数 16名

指導者 ○○ ○○

- 1 単元名 「プロジェクトN ～高齢者をつながる～」  
教材名 「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」（東京書籍6年）
- 2 単元について

### (1) 単元観

#### ①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元では、小学校学習指導要領・国語の第5学年及び第6学年「A 話すこと聞くこと」のA「考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。」と、イ「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」と、「C 読むこと」のウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のカ「語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。」を取り上げて指導する。

#### ②身に付けたい力に向けての言語活動とその特徴

本単元では、「A 話すこと聞くこと」の言語活動例「ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案したりすること」を具体化した「プロジェクトN～高齢者をつながる～」という言語活動を位置づける。この単元は総合的な学習の時間と並行しており、「高齢者をつながる」という大きなテーマに向かって取り組んでいる。この言語活動はその目標を達成するために、自分たちにどんなことができるかを考え、地域や関連する施設に考えたことをプレゼンテーションで提案するというものである。より子どもたちが関心や意欲をもって情報を集めたり、資料を効果的に活用したりする学習に取り組めると考える。

本教材は、コミュニティデザインという考え方の紹介を中心にしながら、大きな二つの視点に基づいて、事例を挙げてわかりやすく述べている。段落ごとのまとめも理解しやすく、説明内容に対応する写真や図表も、筆者の主張や事例を理解しやすくするために配置させているため、総合的な学習の時間で行っている自分たちの提案の内容に事例を取り入れ、プレゼンテーションに活用することができる。

### (2) 児童観

児童は、5年生11月に「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」という教材で、「和の文化」について調べ、伝えたい内容や目的に合わせた資料を活用して説明する学習を行っている。6年生5月の「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、文章の内容を押さえて要旨を捉えたり、自分の考えを明確にしながら読んだりする学習を行った。

全国学力・学習状況調査の「話す・聞く」領域では「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」問題では、正答率43.8%と弱さが見られた。自分の意見を積極的に話すことに自信がないことや、自分の意見と比べたり、批判的な思考で話し合ったりすることができていない。全国学力・学習状況調査で出題されていた「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える。」という問題では、正答率53.3%と低かった。文章構成を立てることはできるが、目的や意図に応じて言葉や文章を選択することに課題が見られる。資料活用については、たくさんの情報から自分の考えに合った資料を選ぶことはできるが、資料のよさを深く考えて活用することは、十分でない児童が多い。

### (3) 指導観

第一次では、総合的な学習で捉えた高齢者とのつながりに対する課題を確認し、単元のゴールで地域に向けて、プレゼンテーションするという目的意識を持たせる。教師のモデルを見て、プレゼンテーションの内容を確認させ、意図を明確にするためにはどんな学習が必要なのかを自分たちで考えて学習計画を立て、主体的な学びを目指していく足掛かりとする。

第二次では、教科書の文章構成（序論・本論・結論）を捉え、筆者の主張を読み取っていく。本論1では、筆者の主張と筆者の挙げている事例がどうつながっているか、本文に使われている事例を挙げることによってどんな効果があるのかを読み取らせていく。同時に、自分たちのプレゼンテーションをより説得力のあるものにするために、主張と事例のつながりを参考にさせる。本論2では、「バックキャスト」の考え方について学習する。文章と図を結びつけることにより、未来をえがくための1つの方法であることを理解させ、自分たちにも取り入れられることを確認する。また筆者が使用している資料について、文章とどう関係があるのか、どんな効果があるのかを考えさせ、自分たちの資料選びの手助けとなるようにする。

第三次では、伝えたいことが明確につたわるような構成・資料、相手や場に応じた言葉遣いを意識させながら、自分たちのプレゼンテーションを作らせていく。1回目の発表は自分たち同士で聞き合い、2回目は先生方にも入ってもらいアドバイスをもらいながら推敲していく。

本単元では、児童一人一人に自分の考えを持たせるために、予習を取り入れた授業展開にしていく。また話し合いの場面では、常に自分の意見と比べたり、批判的な思考で話し合ったりできるように、視点を意識させる。そうすることで、資料のよさを深く考えたり、目的や意図に応じて言葉や文章を選択したりすることができるようになるだろう。また、身につけた力を今後の日常生活や各教科で、意図を明確にしたり、伝えたいことを簡潔にしたりして話すことができるようにつなげていきたい。

本時では、より説得力のあるプレゼンテーションにするために、総合的な学習の時間で集めた事例の中から、自分たちの主張に合った事例を話し合いながら選んでいく学習を行う。教材文で学習した筆者の主張と事例との関係を参考にさせながら学習を進めていく。各グループで話し合い、その後2つのグループ同士で、お互いの主張に事例が効果的に活用されているか批判的な思考を働かせながら確認させる。再度自分たちのグループに戻り、アドバイスをもらったことを基に検討し、プレゼンテーションに使う事例を決める。

### (4) 研究主題との関連

- 本時の授業で、児童が主体的・対話的で深い学びを実現するために、準備段階で、一人一人がしっかりと事例集めに取り組ませることによって、自分たちの思いをもって主体的・対話的な学びができるようになる。また本当に事例と主張があっているのか、お互いに批判的な思考でアドバイスすることによって深い学びにつなげていきたい。
- 単元を通して、教材文で学習したりプレゼンテーションを作ったりする際に語感や言葉の使い方に対する感覚について、正しいかどうかを常に意識させていく。また、プレゼンテーションに必要な言葉や相手に合わせた言葉を使わせていくことによって、語彙を増やしていきたい。
- 本単元では、インターネットで調べた資料や、新聞記事等を使用して、説得力をもたせるために効果的な事例を集め、自分たちの主張に合わせて選ばせる。

## 3 単元の目標

複数の資料から読みとった情報をもとに、目的に応じて資料を選ぶことができる。  
意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用して発表することができる。

#### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とのつながりに関心を持ち、教材文や関連図書、資料等を読んで調べ、自分たちの考えを相手に伝えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した知識や情報を分類したり関係づけたりして伝えたい内容に応じて整理している。</li> <li>・意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用し表現を工夫して話している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションをするために、文章の構成や内容を的確に押さえて要旨を捉え、自分の考えを明確にしながらかいている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分の表現に生かしている。</li> </ul>

#### 5 指導と評価の計画（全13時間）

次	時	○ 指導のねらい（目標） ・ 学習内容	評 価				評価規準 （評価方法）
			関	話 聞	読	言	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確かめ、学習の計画を立てることができる。</li> <li>・教師によるプレゼンテーションを見て、単元のゴールイメージをつかむ。</li> <li>・プレゼンテーションを行うために必要な力を確かめる。</li> </ul>	◎				<ul style="list-style-type: none"> <li>◎プレゼンテーションすることに興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 （ノート・観察）</li> </ul>
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の論の進め方を読み、筆者の主張を確認することができる。</li> <li>・序論・本論・結論にわけ、文章の構成をつかむ。</li> <li>・本論の中で、筆者の主張と事例の挙げ方も確認する。</li> </ul>			◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎構成（序論・本論・結論）や筆者の主張を確かめながら、町の幸福論を読んでいる。 （ノート・観察）</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本論1で、説得力をもたせるために筆者が事例をどう使っているか理解することができる。</li> <li>・本論1で筆者はどんなことを伝えたいのか、2つの事例の共通点は何か考える。</li> <li>・本論1で使われている資料の効果を考える。</li> </ul>			◎	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎筆者の主張と事例の関係を確かめながら読んでいる。 （ノート・観察）</li> <li>○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分の表現に生かしている。</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本論2で筆者が挙げているバックキャストの方法を理解することができる。</li> <li>・文章と図をつないで、バックキャストの考え方を図式化する。</li> <li>・自分たちの描く未来をバックキャストして、再確認する。</li> </ul>			◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎バックキャストの方法を理解し、文章と図を関係付けて読んでいる。 （ノート・ワークシート・観察）</li> </ul>

3	5 (本時)	<p>○自分たちの主張に効果的な事例を選ぶことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文で学習した筆者の主張と事例の挙げ方を参考に、自分たちの主張に合った事例をグループで選ぶ。</li> <li>・グループに分かれて、お互いの選んだ事例が主張にあったものになっているか確かめ合う。</li> </ul>		◎		◎収集した知識や情報を分類したり関係づけたりして、主張に合った事例について話している。(ノート・観察)
	6	<p>○自分たちの主張が明確に伝わるような構成の仕方を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案、事例、現状・課題をどの順序で構成すると、より説得力のあるプレゼンテーションになるかを、話し合う。</li> <li>・構成を話し合う中で、どんな資料を使うのかについても話し合う。</li> <li>・グループで話し合った後、全体で出し合い、ほかのグループの意見を聞いて、もう一度練り合う。</li> </ul>		◎		◎説得力のあるプレゼンテーションになるように、構成を考えている。(ノート・観察)
	7 ・ 8	<p>○自分たちの主張に沿って、構成や資料を効果的に使いながら、発表原稿を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい構成になっているか、資料は合っているか、地域の方(大人)を意識した言葉を使えているかを確認しながら原稿を考える。</li> </ul>		○		◎ ◎事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いを使い原稿を考えている。 ◎語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分の表現に生かしている。(ノート・観察)
	9	<p>○自分たちの主張が伝わるように発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれて発表する。</li> <li>・構成、資料、言葉に着目しながら、友達の発表を聞く。</li> <li>・より説得力を持ったプレゼンテーションになるようにお互いにアドバイスし合う。</li> </ul>	○	◎		◎○より説得力のあるプレゼンテーションになるように、お互いに聞きあってアドバイスしている。(付箋、発言、ノート)
	10	<p>○前時でアドバイスをもらったことを基に、より明確に伝わるように推敲することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成、資料、言葉が効果的に使えているかどうか確認する。</li> <li>・相手を意識した発表の仕方を工夫する。</li> </ul>		◎		◎改善点について話し合い、自分たちの発表を推敲している。 ○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分の表現に生かしている。(原稿、観察)
11	<p>○自分たちの主張が伝わるように発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生にも入ってもらい、1グループずつ全体に発表する。</li> <li>・構成、資料、言葉に着目しながら、友達</li> </ul>	○	◎		◎○よりよいプレゼンテーションになるように、改善点を見つけている。(付箋、発言、ノート)	

	<p>の発表を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より説得力を持ったプレゼンテーションになるようにお互いにアドバイスし合い、先生に意見をもらう。</li> </ul>					
12	<p>○先生や友達にアドバイスしてもらったことを基に、よりよいプレゼンテーションに推敲することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成、資料、言葉が効果的に使えているかどうか確認する。</li> <li>・相手を意識した発表の仕方を工夫する。</li> </ul>		◎			<p>◎改善点について話し合い、自分たちの発表を推敲している。</p> <p>○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分の表現に生かしている。(原稿、観察)</p>
13	<p>○これまで学習してきたことを生かして、自分たちができることをプレゼンテーションすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に実現してもらえる発表になっているかどうか確かめながら聞く。</li> <li>・構成、資料、言葉が効果的に使えているかどうか確認する。</li> <li>・単元の振り返りをする。</li> </ul>	◎				<p>◎これまで学習してきたことを生かして、高齢者とつながるために自分たちができることをプレゼンテーションしている。(ノート・観察)</p>

## 6 本時の指導 (5 / 13)

### (1) 本時の目標

○収集した知識や情報を関係付けながら、自分たちの主張に効果的な事例を選ぶことができる。

### (2) 本時の評価規準

【話・聞】収集した知識や情報を分類したり関係づけたりして、自分たちの主張に対して事例が効果的であるということを話している。(ノート・観察)

### (3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (4分)	<p>1、教材文で学習した、筆者の主張と事例の関係について振り返る。</p> <p>2、めあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を見ながら、筆者の主張が事例と結びついていることを確認させる。</li> <li>・事例がなんのために使われているのか、確認させる。</li> </ul>	
	<p>めあて より説得力を持たせるためには、どの事例を選んだらよいだろうか。教材文で学習したことを基に考えよう。</p>		

<p>展開 (37分)</p>	<p>3、自分たちが集めた事例の中から、自分たちの主張に合うものを選ぶ。        &lt;グループ&gt;</p> <p>4、グループに分かれて、お互いの事例が主張に合っているか確認しあう。        ↓        全体でもらった意見から気付いたことを交流する。</p> <p>5、再度自分たちのグループで検討し、使う事例を選ぶ。</p> <p>6、決まった事例を2つのグループで発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習したことをもとに、自分たちの主張に対して事例が効果的かどうか、話し合わせる。</li> <li>・説得力をもたせることができるのか確認しながら話し合わせる。</li> <li>・机間指導しながら、困っているグループには助言する。</li> <li>・2つのグループにわかれて、お互いの事例があるのか確認させる。</li> <li>・話し合ったことをノートに書かせる。</li> <li>・ほかのグループから出ている気付きを踏まえて各グループで検討させる。</li> </ul>	<p>【話・聞】収集した知識や情報を分類したり関係づけたりして、自分たちの主張に対して事例が効果的であるということを話している。(ノート・観察)</p>
<p>まとめ (4分)</p>	<p>7、 学習のふり返しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習で分かったことや感じたことを書く。</li> </ul>	

(4) 評価規準

- A： 収集した知識や情報を分類したり地域の現状と関係づけたりして、自分たちの主張に対して事例が効果的である根拠を明確にして話している。
- B： 収集した知識や情報を分類したり関係づけたりして、自分たちの主張に対して事例が効果的であるということを話している。

(5) 準備物

事例

(6) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px; margin: auto;">振り 返り</div>	<p>①花の球根植え、育て</p> <p>②昔遊び大会</p> <p>③折り紙で共同製作</p> <p>④体をつかった運動</p>	<p>【各グループの主張】</p> <p>・成功例を出すことで、説得力を高めることができる。</p> <p>・自分たちがしたいことを、相手に想像してもらいやすくすることができる。</p> <p>【事例の効果】</p> <p>・成功例を出すことで、説得力を高めることができる。</p> <p>・自分たちがしたいことを、相手に想像してもらいやすくすることができる。</p>	<p style="text-align: right;">町の幸福論</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin: auto; float: right;">めあて</div> <p>より説得力を持たせるためには、どの事例を選んだらよいだろうか。教材文で学習したことを基に考えよう。</p>
--	---	--	--

